

ペスト菌(PX)撒布による「細菌戦」戦果の実相

—「陸軍軍医学校防疫研究報告」掲載の高橋正彦論文から—

筋 昭三

公益法人社団石川勤労者医療協会 城北病院

「陸軍軍医学校防疫研究報告」2部に高橋正彦論文がある。「ペスト菌の細菌学的研究」関連論文20篇、「昭和15年農安及新京に発生せるペスト流行について」関連論文6篇である。前者は免疫学的研究、細菌戦用のPX(Plagueに感染したXenopsylla cheopis Rothschild・けおびすねずみのみ)の増産関連論文であり、後者は1943年6月からの農安・新京での「ペスト流行」の疫学的研究関連論文である。この「昭和15年農安及新京に発生せるペスト流行について」の論文は、従来から中国及び日本の研究者間で討論され、この「ペスト流行」は731部隊による謀略説もあったが、当時散発していたペスト集団発生の一つであり、其の研究論文とされて今日に及んできた。

ところが2011年10月、奈須重雄氏が国立国会図書館関西館で元731部隊隊員金子順一が戦後東京大学に提出した博士号申請論文を検索し幾つかの論文を発見した。其の中の一編「PXノ効果略算法」(「陸軍軍医学校防疫研究報告I部第30号」昭和18年1月21受付)には昭和15年6月4日から昭和17年6月19日までに731部隊が実施した農安や常德等への低空雨下細菌攻撃六件の記録が記載され、その第1例が昭和15年6月4日「農安」、第2例が昭和15年6月4~7日「農安大賚」と明記されていた。したがって「陸軍軍医学校防疫研究室報告I部」に記載されていた「昭和15年農安及新京に発生せるペスト流行について」論文6篇は、将に731部隊が最初に実施した細菌戦=PX撒布作戦の「戦果」の克明な記載であることが明らかになったのである。

15年戦争中に日本軍が実施した「細菌戦」は、これまで多数が指摘されてきたが、それらの作戦の「戦果」の判定は「敵陣」のために非常に困難で、未だに「戦果」の評価が定まってはいない。しかし、其の点では上記の高橋論文「昭和15年農安及新京に発生せるペスト流行について」論文6篇は、PX撒布作戦の結果の克明な記載であり、当時の日本軍の「PX細菌戦」の実態を明らかにしている点ではきわめて重要と考えられる。これらの各論文の特徴的な結論は次のようである。

- 1, 患者の発病情況—6月中旬農安医院付近で2, 3人のものが不明の急性疾患で死亡し、……。
- 2, ペスト流行は8, 9, 10, 11月と順次近隣地域に伝染, 有菌鼠による伝染が主であった。
- 3, 遠隔地への伝播は, まず鼠族へ伝染, 鼠ペストの大量発生, その後患者発生し, 流行。
- 4, 新京では28例が発病, 敗血症死亡が多く, 罹病期間は1~7日が多い。
- 5, 罹病の経過日数は平均6, 8週であった。年齢11~20歳の患者の治癒率が高い。
- 6, ペスト患者からの菌検出は容易でない。回復患者の検査では長期にわたる菌の保有者はいない。
- 7, ペスト患者血清のペスト菌殺菌作用は特異的で, ペスト患者の診断に利用できる。
- 8, 屍体124体から58体でペスト菌を確認, 死者のすべては敗血症死であることを確認。
- 9, 農安, 新京地域から分離された110種のペスト菌(患者・屍体71株, 鼠29株, 蚤9種, 虱1種)を同定したが, すべて同一種であることを確認
- 10, 10月5日より「加茂部隊」(731部隊)を汚染地域に投入し, 一朝有事の際の軍官民一体の防疫体制の訓練を実施した。